

1. 技術体系の特徴

経営類型	労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴	
茶(乗用型-共同利用)	人 1.5	茶(乗用型-共同利用)	a 300	1. 品種は早生品種「さえみどり」等を4割、「やぶきた」5割、晩生品種「おくゆたか」等1割とし、荒茶製造は委託加工とする。	
		耕地面積 水田畑	300	2. 目標収量は、標準技術で達成可能な収量とし、「やぶきた」成園の10a当たり生産量で一番茶550kg、二番茶400kg、三番茶250kgとする。注) 3. 栽培方式は高品質茶生産を図るため、被覆栽培とする。 4. 防霜ファンは、茶園の50%に設置し、生産安定を図る。	
経営目標	1 農業総収入 13,452 千円		4 1日当たり農業所得 9,056 円		
	2 農業経営費 11,262 千円		5 1人当たり年間労働時間 1,290 時間		
	3 農業所得 2,190 千円				

注) 生産性・作業性の向上のため、定期的の中切・深刈更新を実施して後の摘採を行わない茶園(二番茶は面積の2割、三番茶は面積の5割を不摘採)や、品種により栽培面積が異なることとなるため、経営全体における実質的な平均生葉収量は、10a換算で一番茶555kg、二番茶328kg、三番茶113kg、合計996kgとする。

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所有割合	取得価格	耐用年数	年間償却額
建物・施設	防霜ファン	一式	150a 3~4.5kw/10a	1	千円 10,260	7	千円 557
	計				10,260		557
農機具	管理機(浅耕機)	1	84cc	1	293	7	16
	動力噴霧器	1	9ps	1	207	7	11
	乗用型摘採機(浅刈、刈捨装置を含む)	1	27.5ps	0.33	1,833	7	100
	自走式肥料散布機	1	81cc	1	331	7	18
	自走式両面裾刈機	1	23cc	1	233	7	13
	可搬型せん枝機(中刈)	1	34cc	0.33	47	7	3
	自走式深耕機	1	98cc	0.33	116	7	6
	普通トラック	1	2t車	1	3,756	5	376
	草刈機	1	21cc	1	14	7	1
	計					6,828	

3. 技術体系

1-1) 作業体系 (乗用型)

(10a当たり:人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項												
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間														
栽	施肥	畦間全面に施肥したあと、管理機で浅耕する。	自走式肥料散布機	1	1.3	1.3		施肥基準による。												
	浅耕								2月下旬~3月上旬	管理機	1	1.0	1.0	肥効調節型肥料使用の場合は、追肥を省くことができる。						
									4月上旬						1	1.0	1.0			
									5月中~5月下旬									1	1.0	1.0
									6月中~下旬											
	8月下旬~9月上旬	1	1.4	1.4	芽出し肥に液肥を施用する場合は乗用型防除機を活用し、株元へ散布する。															
培	除草	摘採面及び株元の除草を人力で行う。		4月下旬	1	2.0	2.0													
				6月上旬	1	2.0	2.0													
				7月中旬	1	2.0	2.0													
				8月中旬	1	2.0	2.0													
				10月下旬	1	2.0	2.0													
理	病虫害防除	葉裏まで十分付着するよう散布する。	動力噴霧器	2月上~中旬	2	2.0	4.0	病虫害防除基準による。 殺ダニ剤 400ℓ/10a 殺虫・殺菌剤 200ℓ/10a クワシロカイガラムシ 1,000ℓ/10a(2年に1回)												
				2月中~下旬	2	2.0	4.0													
				4月上旬	2	2.0	4.0													
				5月下旬	2	1.0	2.0													
				7月上~中旬	2	1.0	2.0													
				8月中旬	2	1.0	2.0													
				8月下旬	2	1.0	2.0													
9月中旬	2	1.0	2.0																	
品質向上	被覆	被覆は直接掛けとする。		2	0.8	1.6	化繊寒冷紗 600m 茶用ピンチ	期間は、一番茶で7~10日間、二番茶で5~7日間行う。 遮光率60%程度のものを用いる。												
摘採	摘採	一番茶は出開度40~70%、二・三番茶は出開度50~60%をめどに摘採する。	乗用型摘採機 (共同利用)	一番茶	1	1.1	1.1	各茶期とも適期を逸しないように、計画的に行う。 三番茶芽の芽伸び不良園では摘採を中止し、良好な園では8月上旬までにせん除する。												
				4月中~5月上旬	1	0.8	0.8													
				6月中~下旬	1	0.8	0.8													
整枝	整枝	萌芽前に新芽を切断しない高さで摘採面を整える。 刈番は摘採14~16日後に行う。 三番茶芽及び再生芽は8月10日までに進行。 秋芽の芽数が多い位置で行う。	乗用型摘採機 (共同利用)	3月上旬	1	0.2	0.2	一番茶萌芽前に樹冠面の乱れが見られる場合は、整枝を行う。 二・三番茶萌芽前に遅れ芽が見られる場合は、萌芽前に再整枝を行う。 秋整枝は秋芽の硬化を見て行い、寒害常襲地では春整枝(2月下旬~3月上旬)を行う。												
				5月上~中旬	1	0.3	0.3													
				6月中~下旬	1	0.3	0.3													
				7月下旬~8月上旬	1	0.4	0.4													
				10月中~下旬	1	0.6	0.6													

3. 技術体系

1-2) 作業体系 (乗用型)

(10a当たり:人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
整枝	裾刈り	畦間の空間が25cm程度になるよう裾部を刈り落とす。	各茶期後及び秋整枝前	自走式裾刈機	1	3.2	3.2	
更新	中切り	一番茶後に乗用型摘採機で地際より60cm前後の高さに刈下げ、仕上げを可搬型で45cmの高さに水平に行う。	5月中～下旬	乗用型摘採機(せん枝装置) 可搬型せん枝機	2	0.5(2.5)	1.0(2.5)	中切りは5年に1回実施する。
	せん枝	二番茶後に摘採面から10～20cm刈り下げる	6月中～下旬	乗用型摘採機 せん枝装置	1	1.0	1.0	摘採後速やかに実施できる場合は、深めに刈り下げ、6月下旬には、浅刈り程度とする。
土づくり	土壌改良	秋肥施用の2週間前までに石灰資材を投入し、管理機で土壌と混和する。	7月下～8月中旬	自走式肥料散布機 管理機	1	1.0	1.0	施肥基準による。 三番茶摘採後に酸度検定を行い、pH(純水)4.0～5.0に矯正する。
	深耕	隔年で行う。	8月上～下旬	自走式深耕機	1	1.5(3.0)	1.5(3.0)	新根の発生が旺盛になる前に終えること。
	有機資材投入		11月上～12月下旬		2	1.5	3.0	堆肥2t以上 完熟堆肥を用いる。
環境整備	環境整備	圃場周辺の除草・排水対策、側溝、耕作道整備など。	年間	草刈機等	1	8.0	8.0	除草剤散布の場合は、除草剤使用基準を適用する。
		機械・施設等を点検整備する。	3月中～3月下旬		2	0.2	0.4	チェックシートを準備し、点検・清掃・部品交換等を行う。
合計							64.5	

注) ()内の数値は、1回の作業時間である。

4. 品目の作付体系 (○ 一番茶収穫、△ 二番茶収穫、□ 三番茶収穫、◇ 秋番茶収穫)

品目	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
茶																								
(被覆栽培)																								

5. 作業別・旬別労働時間(10a当たり時間)

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
施肥・浅耕			0.6	0.7			1.0		0.5	0.5	0.5	0.5													5.7	
除草							1.0	1.0			1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		1.0	1.0					10.0	
病虫害防除		2.0	4.0	2.0			4.0				2.0		1.0	1.0		2.0	2.0								22.0	
被覆							0.8	0.8																	3.2	
摘採							0.3	0.4	0.4			0.4	0.4	0.4	0.4										2.7	
整枝						0.2			0.1	0.2		0.1	0.2		0.2	0.2			0.2	0.4					1.8	
裾刈り									0.4	0.4	0.4	0.4	0.4		0.4	0.4			0.4	0.4					3.2	
せん枝											1.0														1.0	
土壌改良											0.5	0.5													1.0	
深耕																									1.5	
有機資材投入																									3.0	
環境整備	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.2	0.2	0.6	0.6	0.5	0.5								0.4	0.3	0.3	0.3	0.4	0.4	0.2	8.4
機構管理計	0.2	0.4	0.4	2.4	4.4	2.8	1.1	0.6	0.6	5.5	2.6	2.2	0.5	1.1	3.9	2.2	3.7	1.6	2.0	2.4	1.0	1.5	4.6	4.7	0.7	64.5
製茶加工																									0.0	
計	0.2	0.4	0.4	2.4	4.4	2.8	1.1	0.6	0.6	5.5	2.6	2.2	0.5	1.1	3.9	2.2	3.7	1.6	2.0	2.4	1.0	1.5	4.6	4.7	0.7	64.5
月計	1									5.5	10.3	7.5	5.4	5.4	4.4	10.8	2.7	4.4	2.5	2.5	2.5	0.9	0.9	0.9	0.7	2.5

6. 総労働時間

総労働時間	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計											
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下												
総労働時間	6	12	12	72	132	84	33	18	18	165	78	66	15	33	117	66	111	48	60	72	30	45	138	141	21	60	0	24	57	51	24	24	27	27	21	1,935
うち家族労働	6	12	12	72	132	84	33	18	18	165	78	66	15	33	117	66	111	48	60	72	30	45	138	141	21	60	0	24	57	51	24	24	27	27	21	1,935
うち雇用労働																																			0	